

# 田んぼダム機能の発揮と維持

田んぼダムはその目新しさとネーミングから効果ばかりに目が行きがちなのも事実であり、多くの取組みが導入から数年経つと実施率が下がってしまう。

## 田んぼダムの最大の課題！

上流で取組むほど効果があり、  
その効果は下流ほど発現される

実施者と受益者が必ずしも一致しない

# 実施者（農家）の合意形成

不安（水が溜まり過ぎる）への対応

**市が責任を取るといふ姿勢**

**(実際は農家の心配は起こりえない)**

**農家と市だけの取組みにしない**

# 土地改良区との連携

- 平成22年頃 土地改良関係事業費の大幅削減
- 排水機場の電気量削減
- 流域農家のバランス

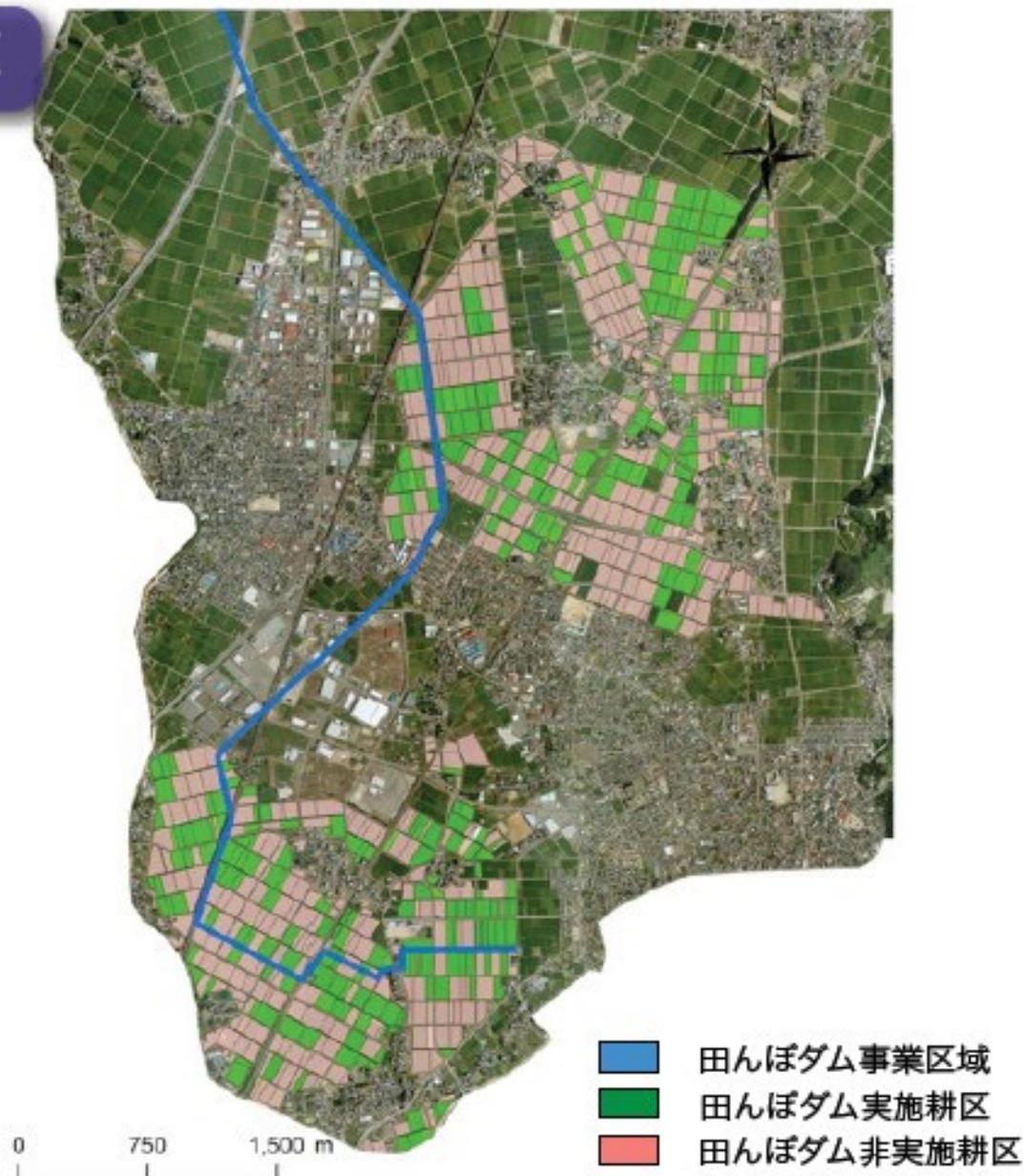


# 排水の仕掛けと 推進の仕組み

# 何故、農家への委託料を創設したのか？

豪雨当日の田んぼダム実施率

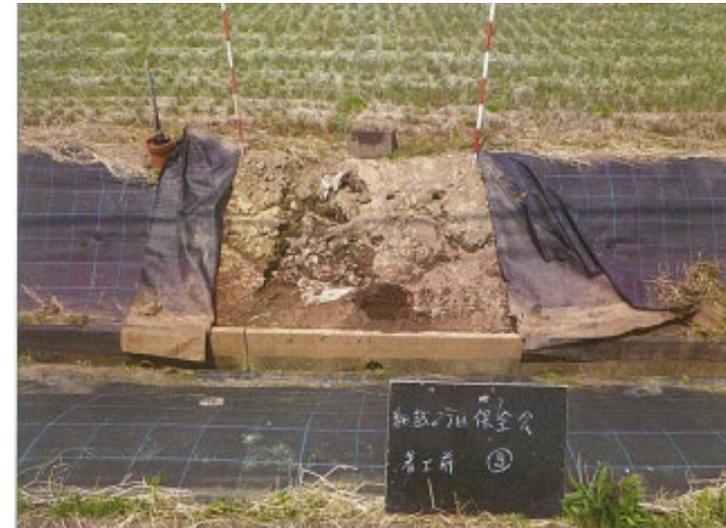
約 39%



# 田んぼダムを推進・継続させるポイント

1. 田んぼの主目的は**米を作ること**
2. 田んぼダムにおいて最も重要な施設は**水田の畔**
3. 目的を**共有しなくてもよい** 田んぼダムは**結果が全て**
4. 行政や土地改良区の**支援が不可欠**
5. 農家の田んぼダム実施を **0か1** で判断しない
6. **多面的機能支払交付金の活用が鍵**

# 田んぼダムに特化した活動～水田に対する活動



# 市の事業評価は数字だけではない！はず

設置に係るコスト

<

浸水被害軽減効果

+

=

市のPR  
市民の防災意識の向上  
農業に対する住民の理解

# これまでの取り組みによる農家の反応

米作りに対する支障はない

畔が壊れるなど田んぼへの影響はない

畔等の保全を多面的で実施できるので助かる

田んぼダムをやっている意識はない

## 最後に

**田んぼダムの取り組みは、過度な期待をせず、**

**農家も行政もリラックスしてやっていこう！**

**上手くいかなかったら柔軟に変えればいい！**

**まずは日本の農家が一体となって面積を増やそう！**